



がっこう 学校だより 2月号

たか ふね だい
高 舟 台

れいわ ねん がっ にち
令和5年1月31日

のりしろ

ふくこうちょう まつお あきひろ
副校長 松尾 哲博

みなさんは、NHK大河ドラマをご覧になっていませんか。1月から始まった『どうする家康』は、松本潤さん演じる弱小大名の徳川家康が、人生の選択に迫られながら骨肉相食む戦国時代の世を生き抜いていく、というストーリーになっています。その徳川家康が、昨年末の12月、前作『鎌倉殿の13人』の最終回の冒頭に出演し、『吾妻鏡』を読んで承久の乱を楽しみにする、という場面がありました。番組の宣伝、と言ってしまえばそれまでですが、視聴者を楽しませて最終回にして次のドラマを期待させる、うまい手法であったと思いました。

何か大きな節目を迎えるとき、そしてそれによって多くの人の異動を伴うときというのは、前任者と後任者による引継ぎが必要になります。学校現場では、そうした期間ややりとりを、よく使う文房具になぞらえて「のりしろ」と呼んでいます。

1月に入り、6年生は「卒業」を意識することが多くなってきました。それは単純に時間の経過や学びの場所を移すということだけではなく、今請け負っていることについて、次の人たちへ円滑にバトンを渡す責任があるということです。そしてこの「卒業」は6年生だけに終わったものではなく、在校生、特に5年生にも大きな意味が生じます。たて割り活動、委員会活動、クラブ活動、毎朝の班別登校…。いるのが当たり前で、知らず知らずのうちに頼っていた6年生がいなくなる…。とすれば、4月からは自分たちが引っ張っていかねばならないという、プレッシャーや焦りにも似たものを感じるのではないのでしょうか。ですが、それらは決してマイナスのイメージのものではなく、私たちが主役だ、ここからは自分たちで創り上げていこうというやる気につながる、前向きな力の源となっていくことでしょう。

これから3月の卒業・学年末に向けて、全学年がそれぞれの取組の中で「次」を迎えるための準備期間を過ごすこととなります。ともに学ぶ時間を大切にしながら、時には言葉で、時には手紙で、時には一緒に遊ぶことで、思いを伝え合い、共有しながら、確かな「のりしろ」で高舟台小の伝統をつなげていってほしいと願っています。

がっこうきょういくもくひょう
学校教育目標

じぶん
「自分をのばし

ともだち みと あ
友達と認め合いながら

ちいき あゆ
地域とともに歩む」